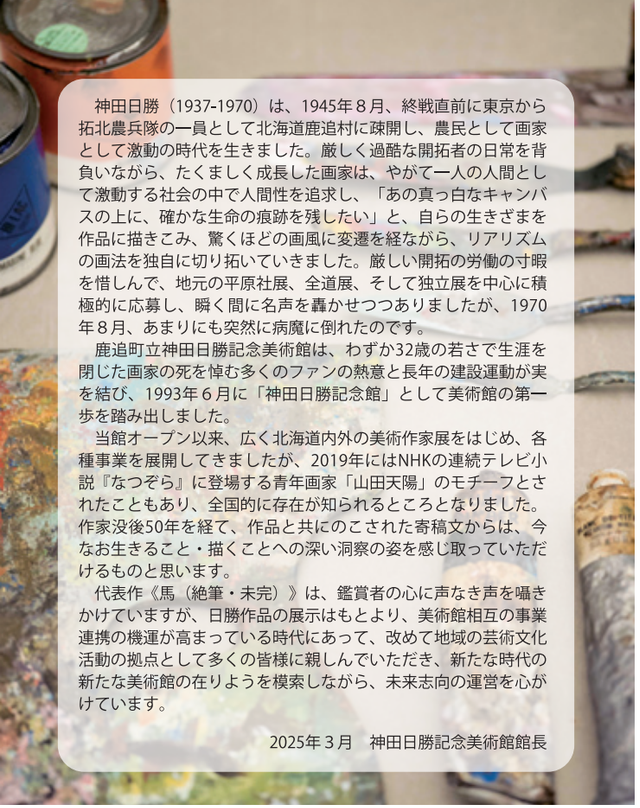


神田日勝（1937-1970）は、1945年８月、終戦直前に東京から拓北農兵隊の一員として北海道鹿追村に疎開し、農民として画家として激動の時代を生きました。厳しく過酷な開拓者の日常を背負いながら、たくましく成長した画家は、やがて一人の人間として激動する社会の中で人間性を追求し、「あの真っ白なキャンバスの上に、確かな生命の痕跡を残したい」と、自らの生きざまを作品に描きこみ、驚くほどの画風に変遷を経ながら、リアリズムの画法を独自に切り拓いていきました。厳しい開拓の労働の寸暇を惜しんで、地元の平原社展、全道展、そして独立展を中心に積極的に応募し、瞬く間に名声を轟かせつつありましたが、1970年８月、あまりにも突然に病魔に倒れたのです。

鹿追町立神田日勝記念美術館は、わずか32歳の若さで生涯を閉じた画家の死を悼む多くのファンの熱意と長年の建設運動が実を結び、1993年６月に「神田日勝記念館」として美術館の第一歩を踏み出しました。

当館オープン以来、広く北海道内外の美術作家展をはじめ、各種事業を展開してきましたが、2019年にはNHKの連続テレビ小説『なつぞら』に登場する青年画家「山田天陽」のモチーフとされたこともあり、全国的に存在が知られるところとなりました。作家没後50年を経て、作品と共にのこされた寄稿文からは、今なお生きること・描くことへの深い洞察の姿を感じ取っていただけるものと思います。

代表作《馬（絶筆・未完）》は、鑑賞者の心に声なき声を囁きかけていますが、日勝作品の展示はもとより、美術館相互の事業連携の機運が高まっている時代にあって、改めて地域の芸術文化活動の拠点として多くの皆様に親しんでいただき、新たな時代の新たな美術館の在りようを模索しながら、未来志向の運営を心がけています。

2025年３月　神田日勝記念美術館館長

休館日カレンダー

● 休館日

2025 4

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2025 5

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2025 6

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2025 7

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2025 8

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2025 9

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2025 10

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2025 11

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2025 12

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2026 1

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2026 2

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2026 3

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2025.4 – 2026.3

Event Schedule

2025.4.13(日)まで　神田日勝記念美術館

2024年度コレクション展Ⅱ　牛馬は何を語るのか？

神田日勝の短い画歴のなかで、数多く描き残してきた牛と馬が描かれた作品に焦点を当てます。乳牛、農耕馬、亡骸、そして半身の馬……それらの属性や、あるいは皮膚や臓器、性器といった部位、さらには彼ら/彼女らが置かれている場所にも注目します。

2025.4.16(水)～2025.6.22(日)　神田日勝記念美術館

2025年度コレクション展Ⅰ　トリビュート神田日勝

当館の館蔵品のなかから、神田日勝とともに画業の研鑽に切磋琢磨してきた同時代の画家たちの作品と、また日勝をリスペクトして・日勝の作品をオマージュして制作された現代作家の作品をピックアップして紹介します。
日勝の作品とともに双方の作品を一堂に会することで、日勝を中心につながり、そして広がる芸術世界を展覧します。

渡邊禎祥《廃車B》 1970年
神田日勝記念美術館蔵

2025.6.25(水)～2025.9.28(日)　神田日勝記念美術館

企画展　神田日勝×クスミエリカ　不在の気配、存在の痕跡

クスミエリカ（1982- ）は、札幌市出身で、現在も在住しながら活動を続けている写真家・美術作家です。

さまざまな場所、人、建物、動物など、自分自身で撮影した写真のみを素材に、時間も空間も異なるそれらをデジタル技術により加工（デジタルコラージュ）し、多くの写真を幾層にも重ね合わせた作品を制作するクスミのアートワークは、誰もが目にする現実の風景を再構成しています。
日勝もまた、自身の生活に根差した身近なモチーフや十勝の風景を題材としつつも、実際の光景をそのまま写し取るのではなく、画家の脳内で再構成した独自のリアリズムを絵画で表現しており、この両者の制作活動と相通ずるものがあります。
本展ではクスミの表現する「非現実の世界が現実の延長・平行線上にある」作品と日勝の絵画を同じ空間に展示することで、互いの作品の特色を浮かび上がらせます。
現代に遺された日勝の絵は、画家の存在を色濃く感じることができる媒介として存在します。

クスミエリカ《追憶》2023 年 作家蔵
©Erika Kusumi

日勝はどう生きて、何を遺したのか。彼とは異なる時代に生きる作家の手によって彼の痕跡と記憶を辿っていくことで、日勝の捉える「社会」や「世界」、果ては神田日勝という「存在」について迫ることを試みます。

第33回馬耕忌
アーティストトーク
日時：8/24（日）
時間帯および会場：調整中
講師：クスミエリカ 氏（本展出品作家）

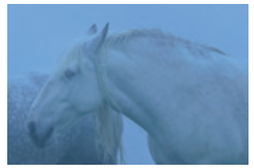
※詳細は展覧会チラシおよび当館HPにてご案内します。

クスミエリカ《使者》2023 年 作家蔵
©Erika Kusumi

2025.10.3(金)～2025.11.30(日)　神田日勝記念美術館

2025年度コレクション展Ⅱ　日勝をフィルターに通したら

神田日勝も手掛けてきた「絵画」は、美術史においては「彫刻」と並んで、美術作品の伝統的、代表的なジャンルですが、現代において美術は「版画」「写真」「工芸」「空間芸術」など多岐に渡ります。
本展では当館のコレクションのうち、絵画ではないジャンル、主に現代作家の作品に注目します。それらの作品は日勝に何らかの影響ないしは着想を得て制作されたものも少なくありません。作家の目、あるいはファインダーといった「フィルター」を通して日勝をどう捉えてきたのか、日勝の作品と共にご覧いただきます。



岡田敦《Yururi Island 2017》 2017年
神田日勝記念美術館蔵

神田日勝《馬（絶筆・未完）》1970 年
神田日勝記念美術館蔵

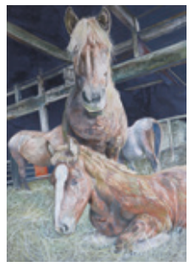
2025.10.7(火)～2025.10.14(火)　鹿追町民ホール

第31回　馬の絵作品展　観覧無料

当館では毎年全国の小中学生を対象に「馬の絵」の絵画コンクールを実施しています。入賞・入選の表彰式にあわせて、子ども達の個性あふれる応募作品を全点（約600点）展示いたしますので、ぜひ会場でご覧ください。なお、本展終了後、入賞入選作品は巡回展にも出品されます。

巡回先：道立ゆめの森公園（中標津町）、江別市セラミックアートセンター（江別市）、帯広信用金庫中央支店「おびしんふれあいギャラリー」（帯広市）

第31回馬の絵作品展表彰式
日時：10/11（土）
会場：鹿追町民ホール



第30回馬の絵作品展 文部科学大臣賞
羽幌町立羽幌中学校２年　神永みそら

2025.12.3(水)～2026.3.29(日)　神田日勝記念美術館

特別企画展
神田日勝記念美術館×小川原脩記念美術館所蔵作品交換展

二人の歩んだ道

本展は、倶知安町に生まれ、戦前は東京で前衛絵画を、戦後は郷里・倶知安に居を構えて60年以上制作を続けた画家・小川原脩の作品を収集・展示する小川原脩記念美術館（倶知安町）との所蔵品交換展です。
小川原の画業は、戦前のシュルレアリズムへの傾倒、戦後に入っての北海道的な題材への取り組みや、縄文文化・シャーマニズムへの接近、そして動物をテーマにした作品を経て、晩年のチベット・インドへの接近と、生涯にわたって様々な画風の変遷をたどりました。
日勝もまた、生涯を通じて、戦後社会派リアリズムや、ポップアートを思わせる色彩の氾濫、そしてアンフォルメルなど、自らの画風を最後まで模索し続けました。
また小川原は、犬や白鳥といった動物たちの姿に人間社会の構図を投影することで社会における在り方を表現しようと試み、日勝もまた農業に従事する傍ら身近な題材をもとに絵を描き続けることで、没個性化していく人間社会へ警鐘を鳴らしました。
戦後の激動の時代にあって、芸術を通じて自己の確立を目指した二人の画家。両者がそれぞれ歩んだ画業をご覧いただきます。

小川原脩《群れ》1977 年
小川原脩記念美術館蔵

担当学芸員によるギャラリートーク（全2回）
日時：1/10（土）、2/7（土）
いずれも14：00～（30分程度）
会場：本展会場　参加無料（要観覧券）

第23回日勝祭特別ギャラリートーク
日時：12/7（日）時間未定
会場：本展会場　参加無料（要観覧券）
講師：沼田絵美 氏（小川原脩記念美術館副館長・学芸員）

※いずれも詳細は展覧会チラシおよび当館HPにてご案内します。

神田日勝《馬》1965 年
神田日勝記念美術館蔵

イベントのご案内

第31回 蕪墾祭（ぶこんさい）
日程：2025.6.14（土）
会場：鹿追町民ホール・神田日勝記念美術館
神田日勝記念美術館の開館（1993年6月17日開館）を祝して開催されるイベントです。

第33回 馬耕忌（ばこうき）
日程：2025.8.24（日）
会場：鹿追町民ホール・神田日勝記念美術館
神田日勝の命日（1970年8月25日）にあわせて、その画業を偲ぶ追悼会を開催します。

第23回 日勝祭
日程：2025.12.7（日）
会場：鹿追町民ホール・神田日勝記念美術館
神田日勝の生誕祭（1937年12月8日生まれ）として、各種講演やミニ・コンサート等を開催します。

＊鹿追町民ホールは美術館に隣接しています。
＊内容が変更になる場合があります。詳細は美術館HPと各イベントチラシにてご案内します。

《人間A》 1969年 油彩、ベニヤ板

抱擁する男女の姿が描かれている。ナイフが勢いよく走る描法は、男女の迸る感情、性愛や官能の様態を表すかのようである。

1970年 体調不良の兆しが出始める中、25周年記念全道展帯広巡回展準備に奔走する。8月、新得町の病院に入院。一時帰宅許可がおり自宅へ戻るも、その後容態が悪化し、清水赤十字病院に転院。8月25日、腎盂炎による敗血症で逝去（享年32歳）。10月、第38回独立展に《室内風景》が出品され、宗左近や中野中、和多田進らの眼に留まる。

《馬（絶筆・未完）》
1970年 油彩、鉛筆、ベニヤ板

日勝の没年に描かれた未完にして絶筆の作品。途中で筆が止まり、背景は手付かずでベニヤ板の地が残されている。

1971年 東京の柳屋画廊で「神田日勝遺作展」開催。宗左近の論評「北辺の農民画家・神田日勝」が『時代』創刊号に掲載、画業評価の端緒となる。

1972年 鹿追町社会福祉会館で「神田日勝遺作展」開催。

1977年 鹿追の文芸サークル「らんぷの会」が、聞き書きや既発表論考を収めた評伝『神田日勝』を刊行。地元での顕彰活動の端緒となる。

1993年 6月17日、鹿追町に神田日勝記念館開館（2006年に神田日勝記念美術館に改称）。

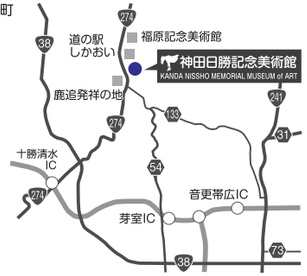
2020年 没後50年を記念し、東京ステーションギャラリーで「神田日勝 大地への筆触」展開催、同展は神田日勝記念美術館、北海道立近代美術館に巡回。

2023年 開館30周年を迎える。

ご利用案内

○貸出用車椅子、貸出用ベビーカーを備えています。
○館内には多目的トイレを設置しています。
○お荷物はコインロッカーをご利用ください（100円硬貨が必要、利用後返却）。
○コインロッカーに入らないスーツケース等は受付でお預かりします。
○館内は盲導犬・聴導犬・介助犬の同伴入場が可能です。
○車椅子用の駐車場は隣接する鹿追町民ホールにあります。
○館内には授乳室・託児所等はございません。町民ホールの授乳室をご利用ください。
　また、おむつ交換台は女性用お手洗い内にあります。

©Katsuaki Sato 2019



開館時間

10:00〜17:00
（最終入場16:30）

観覧料

1.通常券

一　　般	530(470)円
高 校 生	320(260)円
小中学生	210(150)円
未就学児	無料

＊( )内は10名以上の団体割引料金
＊障がい者手帳(療育手帳･精神障害者保健福祉手帳･身体障害者手帳)を持参の方は無料(介添者1名無料)

2.福原記念美術館との共通入館券

一　　般	700円
高 校 生	300円
小中学生	200円

アクセス

1.帯広市内から

バス
JR帯広駅バスターミナル④番乗り場から
北海道拓殖バス51･52･53系統
「鹿追･新得･然別湖線」乗車、
「神田日勝記念美術館前」下車
（所要時間1時間）

自家用車
帯広市内から約45分（約30km）
帯広空港からは芽室ICまで高速利用で
約1時間（約55km）

2.札幌市内から

電車&バス
JR札幌駅から帯広行特急「とかち」
もしくは釧路行特急「おおぞら」に乗車、
①JR新得駅または②JR帯広駅で下車
❶JR新得駅まで約2時間。新得駅から北海道拓殖バス53系統「鹿追･新得･然別湖線」に乗車、「鹿追役場前」下車（約30分）、バス停から徒歩5分。
❷JR帯広駅まで約2時間30分

自家用車
札幌市内から車で約3時間（約180km）
＊十勝清水ICまで高速利用

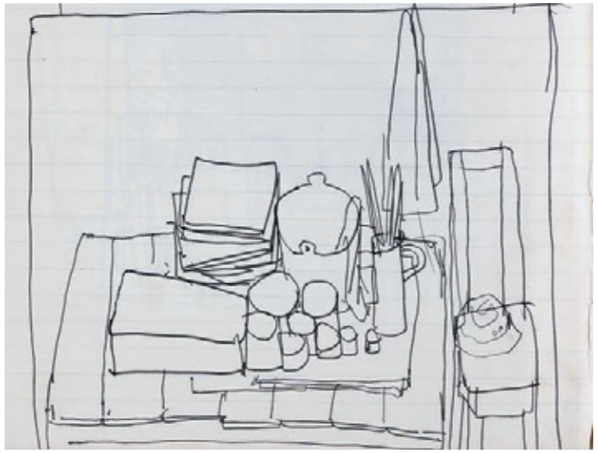
3.東京方面から

飛行機
羽田空港から帯広空港まで約1時間30分、
空港連絡バスでJR帯広駅まで約40分
＊新千歳空港利用の場合は
JR南千歳駅で帯広釧路行特急に乗り換え

＊駐車場は「道の駅しかおい」駐車場をご利用ください

神田日勝記念美術館
KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART
〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町３丁目２
3-2, Higashimachi, Shikaoi, Kato, Hokkaido, Japan 081-0292
tel.0156-66-1555／fax.0156-67-7855
https://kandanissho.com

神田日勝記念美術館
展覧会スケジュール
2025.4－2026.3



神田日勝　デッサン帳　D-5-11 より（部分）　1967-69 年頃　個人蔵

Kanda Nissho
Memorial Museum
of Art

神田日勝　年譜

1937年 12月8日、東京市板橋区練馬（現東京都練馬区練馬）に父神田要一、母ハナの次男として生まれる。

1945年 戦火を逃れ、一家で「拓北農兵隊」に加わり渡道、8月14日に鹿追村（現鹿追町）に到着。翌日終戦を迎える。約3ヶ月後に鹿追村クテクウシ区画外（現鹿追町笹川）の開拓用地に入植。笹川小学校2年に編入する。

1950年 鹿追中学校に入学。美術部の創部に参加。

1952年 帯広柏葉高校に通う兄・一明の影響で油絵を始める。

1953年 鹿追中学校卒業。家業の農業を継ぐ。

1956年 地元帯広の第31回平原社展に《痩馬》を出品し、朝日奨励賞を受賞。

1957年 第32回平原社展に《馬》を出品、同展最高賞の平原社賞受賞。

1960年 第15回全道美術協会展（以下、全道展）で《家》が初入選。

1961年 第16回全道展で《ゴミ箱》が北海道知事賞受賞。同時に兄・一明が北海道教育長賞、その妻の比呂子が同展会友推挙となり、注目を浴びる。

1962年 高野ミサ子と結婚。第17回全道展で《人》が入選。

1964年 長男哲哉誕生。第19回全道展に《飯場の風景》を出品。第32回独立美術協会展（以下、独立展）で《一人》が初出品初入選。

《飯場の風景》
1964年 油彩、ベニヤ板

手足が大きい労働者風の男たちがストーブを囲み休息を取っている。刻み込む筆触で人物も背景も一定の調子で描きあげられている。

1965年 NHK帯広放送局制作の農村番組で紹介される。この頃より帯広画壇との交流が深まる。第33回独立展で《馬》と《死馬》が入選、新人室陳列。

1966年 この頃からモノクローム調の画面に色彩があらわれ始める。第21回全道展で《静物》が会友賞を受賞。同展会員に推挙される。

《静物》 1966年 油彩、ベニヤ板

筵の上に野菜や果物などの豊富な食糧があふれている。個々の食材は緻密で写実的だが、バケツや缶容器は平面性が強調されている。

1967年 第35回独立展に《画室E》が入選、新人室陳列。4年連続の入選で会友となる。

1968年 長女絵里子誕生。自宅に5坪のアトリエを増築。この年、帯広信用金庫からカレンダーの原画制作を10年契約で依頼され《扇ケ原展望》を描く。